

相原資源ごみ処理施設及び（仮称）大戸広場整備事業に関する説明会における主な質疑回答

Q1 搬出入の車両は1日に何台を想定しているか。ピークの時間帯、夜間の車両の出入りはあるか。環境の影響を少しでも低減するために電気トラックを導入する計画はあるか。

A1 搬入については、計算値で1日あたり50台から60台を想定していますが、今後の収集方法や、今年4月に施行されたプラスチック資源循環促進法などへの対応もあり、搬入、搬出ともに検討中です。施設の稼働時間は9時～17時を想定しており原則夜間の出入りは行いません。電気トラックについては今後検討させていただきます。

Q2 搬入搬出ルートは家政学院入口の交差点を利用するのか、相原十字路を利用するのか、わかれれば教えていただきたい。

A2 施設の搬入、搬出ルートについては検討中です。

Q3 施設が稼働した場合、今以上に町田街道、特に大戸踏切周辺は混雑すると考えられるので大戸踏切の立体化を積極的に東京都に申し入れて欲しい。

A3 大戸踏切の立体化については都市づくり部が相原駅前整備事業とあわせて東京都と密に調整しております。用地買収の方は前進しておりますが、境川が隣接していることから、大雨の際の対策など技術的な設計に苦慮していると聞いています。

Q4 不特定のゴミによる火災が起こる可能性があるのか、その時の周辺住民への周知方法は検討しているか。

A4 資源ごみ処理施設の主品目であるビン、カン、容器包装プラスチックにつきましては皆さまが分別して出されたものを回収し、施設の中で人の手選別により異物を取り除くため、火災のリスクは少ないものと考えております。火災の事例や対策については類似施設の火災事例や火災対策事例等を参考にし、周知方法につきましては地区連絡会のなかで検討させていただきたいと考えています。

Q5 プラスチックの圧縮により周辺に影響が出るのではないか。

A5 プラスチックの圧縮については、町田市は市民を交えて実験を行い、実験結果をホームページで公開しております。杉並病の問題があつてのことだと思いますけれども、他の自治体においても実験が行われており、周辺に影響の無いことが報告されています。

Q6 自然環境調査とは1年中を通して動植物を調査するものかと思いますが、早春期の調

査が無いように思います。また、自然環境調査が終わる前に公園の基本設計は可能なのか。

A6 今回と同じような自然環境調査を 2015 年頃に行っており、そのデータを基に東京都と調整をしながら今回調査を行っております。また、設計と調査結果を照らし合わせて影響が想定される所があれば対策案を東京都へ報告いたします。

Q7 事業予算はどのくらいを想定しているか。また、上小山田の資源化施設の進捗状況はどうなっているのか。

A7 費用について、基本計画では施設の建設費を 30 億程度と想定していますが、土木工事を含めた費用はこれから設計を行うなかで出てきます。上小山田の資源化施設は、忠生 579 号線という道路の整備と併せて行うのですが、道路整備の進捗が遅れていて、資源ごみ処理施設の整備にとりかかっていないのが現状です。

Q8 以前、要望した調整区域の下水道整備はどうなっているのか。

A8 資源ごみ処理施設の周辺の下水道整備につきましては、現状整備されておりませんが、布設する予定です。前回、相談いただきました所につきましては、順次対応させていただいております。

Q9 町田街道が災害時に使用できなくなった場合に迂回路として施設から公園へと、通り抜けられるような道路形態に整備していただきたい。

A9 もともと広場は緩衝緑地として整備しておりますので、道路のバイパス的な機能を持たせるという考えはありません。

Q10 当初の要望として、トンネルの方から学校へ人が通り抜けできる道をお願いしたがどうなっているのか。

A10 トンネルからゆくのき学園側へ、散策や人が通り抜けできるような道を設けてほしいとのご意見を頂いておりますので、計画させていただいているところです。

Q11 施設で働く人数など雇用についてどのように考えているか。

A11 施設の雇用につきましては、まだ検討ができておりません。

Q12 資源ごみ処理施設から発生する騒音や臭気が近くの学校へ影響を及ぼす可能性はあるか。

A12 施設から学校までは 100m 以上の距離があることから影響はないと考えています。

Q13 工事予定区域に隣接する住宅地の一部では、樹木のナラ枯れが発生している。突風による倒木の危険性があるので伐採していただきたい。

- A13 工事予定区域内のナラ枯れについては、現地を調査し、隣接地に倒木する可能性のある危険な箇所や管理上必要な箇所について、伐採を検討して参ります。
- Q14 公園利用者用の駐車場は何百台以上を想定しているか。また、公園利用者の中にも足腰の良くない方がいるので、公園のバリアフリー化と広場のイベント利用を考え、多目的広場まで車で行くことは可能なのか。
- A14 駐車場の設計ですが、公園利用者の方も施設の駐車場を利用していくことになります。そのため、何百台以上も駐車可能な設計は考えておりません。また、大戸緑地内の通路は歩行者と車両との接触事故を考慮し、原則歩行者専用としております。こうした状況も踏まえ、施設の駐車場から広場までのバリアフリー化について検討させていただければと思います。
- Q15 広場周辺の東側エリアは土砂崩れの危険性のあるレッドゾーンがあるので整備していただけないか。また、ゆくのき学園の下側から公園に行けるルートは想定しているのか。
- A15 ゆくのき学園からの歩道ルートは基本計画で検討しています。土砂災害につきましても現状の地盤を確認し、設計をしていくことになります。
- Q16 保全林の計画があるが、竹藪の処理をどうするのか。また、施設の周辺には猪が目撃されているのでどのように対応するのか確認したい。
- A16 竹藪は管理上必要な部分は伐採していきます。猪につきましては状況を確認したうえで対応について考えていきたいと思います。
- Q17 公園内には雨水による雨だまりや湿地帯状態の箇所がある。それを活用し、ビオトープにするような考えはあるのか。
- A17 ビオトープについては水量が確保できないとの報告を受けております。